

個人投資家向け決算説明資料

2023年10月期 株式会社オービス

東証STD(証券コード: 7827) 2023年12月23日









- 会社概要
- 主要事業の特徴
- 2023年10月期決算概要
- 2024年10月期決算見通し
- 中期経営計画「NEXT STEP 10」の進捗 05
- 株主還元·配当方針





●主力の木材事業は、梱包用木材の製造・販売で国内シェア No.1

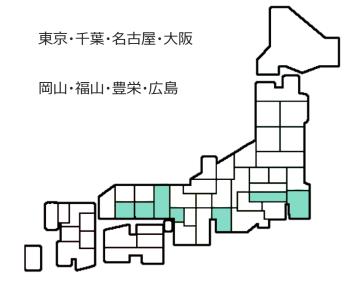
会社名	株式会社オービス(ORVIS CORPORATION)			
本社所在地	広島県福山市松永町六丁目10番1号			
設立	1959年11月			
代表取締役	中浜 勇治(なかはま ゆうじ)			
売上高	115億9617万円(2023年10月期)			
営業利益	6億7012万円(2023年10月期)			
資本金	6億9900万円			
従業員数	186名(2023年10月末現在)			
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場			

事業拠点

■ 木材事業

東京·名古屋·姫路·福山

■ ハウス・エコ事業



会社概要:社名の由来と経営理念



社名の由来

「みなぎる活力」で「未来を創造」する

ORVIS

ORVIS (オービス)・・・ ラテン語の造語

origo : 原点・始まり

: 活力・パワー vis

という意味のラテン語を組み合わせた当社の企業テーマ

経営理念

顧客満足·社員満足

お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより 社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の 皆様に利益を還元していく



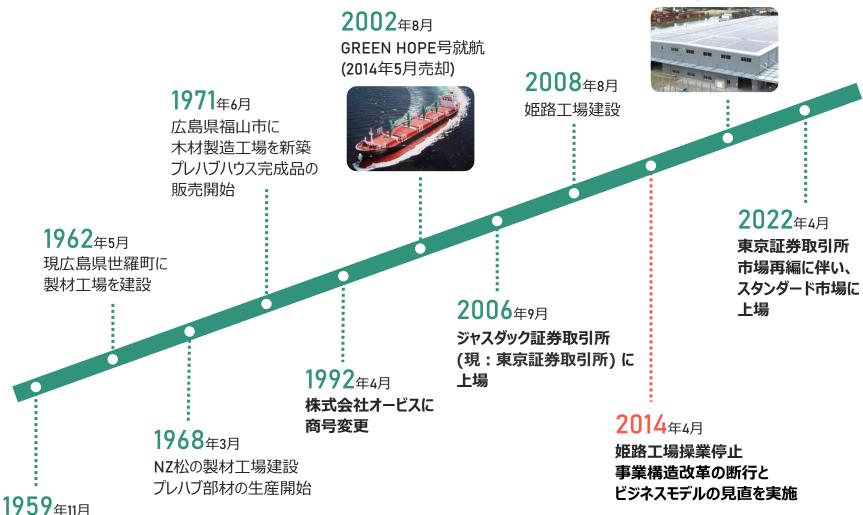
会社概要:主な沿革

有限会社中浜材木店を設立





木材事業福山工場稼働開始



会社概要:5つのセグメント



木材事業

ニュージーランド松及び国産杉を原材料とした梱包用材等の 製造・販売、カラ松・杉・桧等の仕入・販売





ハウス・エコ事業

プレハブハウスの製造・販売、仮設建物のリース、 一般建築及び太陽光発電システムの請負





太陽光発電売電事業

自然エネルギー等による発電(売電)事業



- ・広島県、山口県、愛知県の 3県17ヶ所に設置
- ·合計出力規模約13MW

ライフクリエイト事業

ゴルフ場の運営(山口県周南市)





不動産事業

不動産の賃貸 広島県 福山市2棟

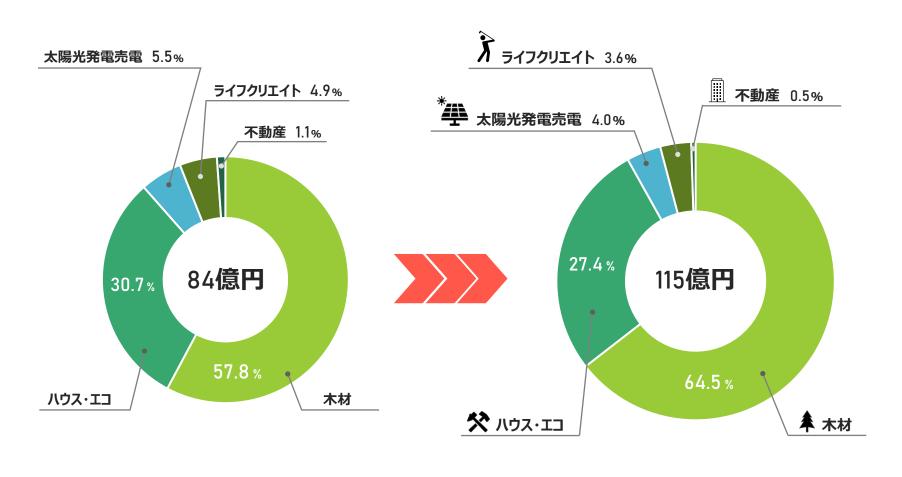




会社概要:売上高構成比



●主力の木材事業とハウス・エコ事業で売上高の約9割を占める



2018年10月期

2023年10月期

会社概要:主に木材事業、ハウス・エコ事業を展開



●梱包用木材の製造・販売+一般建築、プレハブハウスの製造・販売



木 材 事 業

- 建材を含む木材関連の上場企業27社(株探より)中、 梱包用木材をメインとした上場企業は当社のみ
- 梱包用材等の製造・販売において国内最大手
- 杉とNZ松の異なる樹種の製材が可能、利益率の高い材 料の生産比率を上げる等、柔軟な製材が可能
- 材料価格の変動に対するリスクヘッジが可能
- 北は北海道から南は鹿児島まで、日本全国の製材所から 多様な樹種の什入ルートを確保
- 港湾荷役、物流、電線、土木、建築合板、米国向けフェ ンス、ホームセンター等幅広い業界の顧客層を持つ
- 常時取引口座数は約400~500社

ハウス・エコ事業

- 企画、設計、販売、アフターフォローまでトータルサービスを 提供
- お客様のご意見を反映しやすい環境(一元管理)により、 更なるお客様満足度の向上を実現



木材事業:梱包用木材市場でNo.1



- ●当社は梱包用木材の製造・販売でシェア約17%、深耕開拓により更なるシェア拡大を図る
- ●主力市場の梱包用木材でのマーケットシェア拡大を図りつつ、建築合板等向けへの継続供給を維持

国内シェア No.1

梱包用木材市場(木質系)

市場規模 450億円

※当社調べ(推定値)

- 輸出する商品や機材を守るための梱包材のほか、 パレット材、電線ドラム材等の材料として使用
- 木材の表面仕上げ等は行わず、無垢材の状態で出荷
- 梱包対象によって長さ・厚み・幅が異なり、当社で扱う製 品サイズは800種類以上(多明細・小ロット)
- JAS認定は不要(品質基準無)
- 事業計数少ない (中小零細企業が多く、関西より以西に多く存在)
- 当社以外、全て未上場企業









市場規模 17,406億円

建材市場

※ (出所) 総務省統計局:令和3年経済センサス-活動調査より 造作材、合板、建築用組立材料製造業の製造品出荷額等

- フローリング材、収納部材、階段ユニット、室内ドア等、 対象品目は多岐に渡る
- 木材の乾燥や表面仕上げ等が必要
- 建築基準法などにより柱、梁などの製品サイズは限定 (少明細・大ロット)
- 主要な建築材料にはJAS認定が必要(品質基準有)
 - 事業計数多い (大小様々な会社が全国に存在)
 - 多くの上場企業あり









マーケットの特徴

木材事業:梱包用材の販売がおよそ9割



木材事業の売上構成

梱包用木材市場

国内シェア 約17%

梱包用材約 92%

- ・ 輸送時の商品の保護に用いられる材料
- ・ フォークリフトを用いて荷役、輸送、保管 の全てを可能とする面をもった台





機械梱包や木製パレット、電線ドラム等



シェアの拡大を図る

建材約 8%

・ 柱や壁(集成材)に用いられる材料





柱·壁等

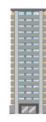


供給を継続

建材市場に販路を持つ利点

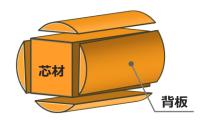
2023年

10月期



木造の高層ビル需要が増加

- SDGsの取り組みによって木材活用 が活発化
- ✓ 木造建築の普及により市場拡大が 期待される



国産スギの背板を活用

- 背板は厚み幅が限定され、梱包用材 での扱いは少ない
- 背板を用いた製品の販売先として建材 市場は有力

木材事業:国内有数の大型ハイブリット工場設備







- 大径材(直径70センチ超)への製材対応
- 特性の異なる樹種毎に対応できる機械







国産杉原木の仕入れ径級の上限撤廃

- 大径化する国産材(杉)事情に対応した什入れの実施
- 大径材(直径70センチ超)の什分けが不要な受け入れ先として杉の集荷に注力
- 大径材の製材により歩留率及び牛産効率向上



多様な木材に対応したハイブリッド機械の導入

- 国内初、特性の異なる樹種を製材可能とした大型工場
- 国産材(杉)と輸入材(NZ松)の製材が可能なことで様々なリスク(ロックダウンによる原木 調達の遅れ、急激な為替変動、原材料価格の高騰等)を軽減



コンピュータスキャンとオートメーション化

- 一本一本異なった形状の原木から、全てコンピュータがスキャンして読み取りを行い、最良の 木取りパターンを指令して製材ライントを流れる
- 短納期を実現、多品種・小ロットの生産にも対応可能
- 単一工場における国内最高レベルの生産量を誇る

木材事業:幅広い顧客層



-般の梱包用木材メーカー

それぞれの用途の製造・販路のみ















梱包用木材市場の 全体へ販売

常時取引口座数 400~500社 梱包用木材市場において 更なるシェア拡大を図る

建材市場にも販路拡大

国産スギ









建築材(ラミナ等)



米国向けフェンス



NZ松

大型機械梱包



パレット



電線ドラム



土留め板



木材事業: 仕入~出荷の流れ 木材を余すことなく活用

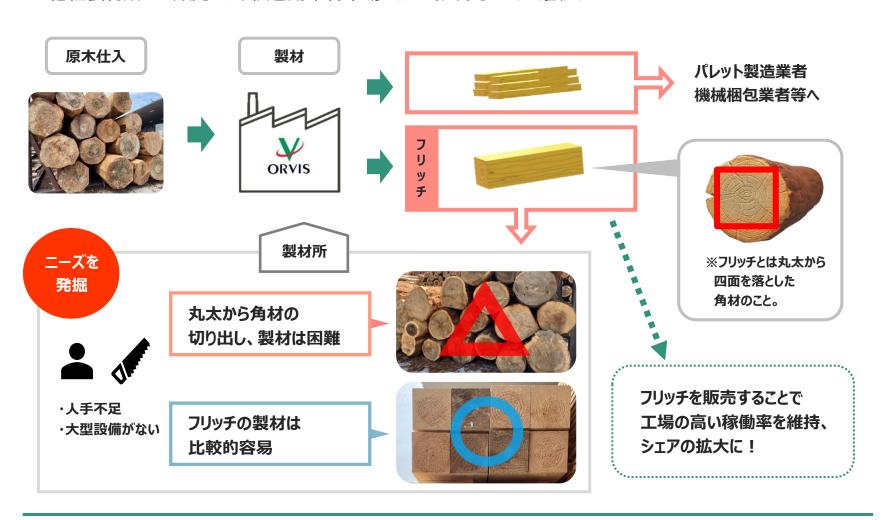




木材事業:他社製材所への販売によりシェア拡大を図る

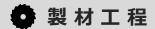


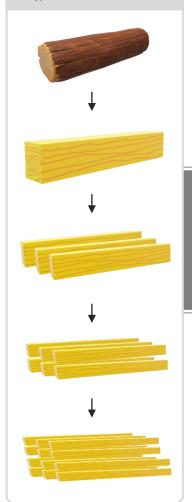
- ●フリッチの販売強化により受注量確保、工場の高い稼働率を維持
- ●他社製材所への販売により梱包用木材市場において更なるシェアを拡大



木材事業:設備投資により生産効率が向上

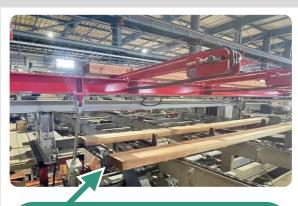






製材時に渋滞

≝℃ 設備投資



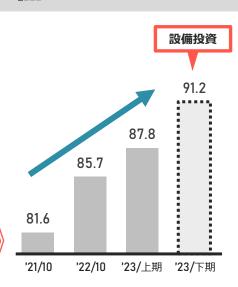
搬送ラインを下段に増設

・搬送ラインの増設により、 工程間の生産性と作業量の差が縮小

生産効率 6%UP (前期比)

コスト低減

・市場回復の際には、 設備投資が収益に大きく寄与 1時間当たりの消費量推移



2023年8月では92.2㎡/h (前 期比107.6%) と成果が表れる 現状冷え込んでいるマーケットが 回復した際には、この度の設備 投資によるコスト低減が大きく 収益に寄与する見込み

結

果

木材事業:当社の強みを活かしたSDGsへの貢献



持続可能な森林資源の活用の実現に貢献

当社の 強み

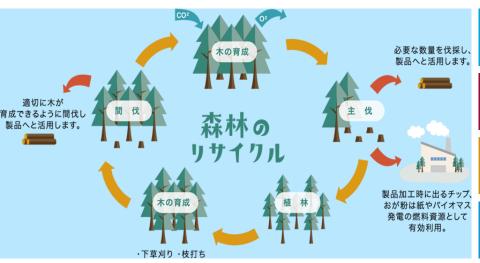
国産杉の生産により CO2吸収に貢献

CO2吸収量が減少した樹齢の高い国産杉を使用 CO2吸収の活発な若木を植林、育成のサイクルへ

直径100cm程度の 大径木を製材する設備 製材が困難な直径70cm超の木材を積極的に受入 業務効率の改善に加え、森林の循環サイクル促進に貢献

循環サイクルに沿った 合法木材の使用

伐採、植林、育成の正しいサイクルで伐採されたコンプライアンス遵守の 合法木材を取り扱い、森林を持続可能資源へ















国産杉2023年仕入量

本 数:223.047本(長さ4m)

材 積:121.185m

平均径: 36.8cm (直径)



ハウス・エコ事業: 規格品では対応できない特注品に特化



プレハブハウスから工場や大型倉庫の「在来重量鋼建築」まで施工可能



工場生産のウェイトが高いプレハブ建築

- 在来工法と比べて建築費用が安価
- 部材が規格化されているため、丁場で部材を大量生産し、丁期も短く大幅なコストカットが可能
- 規格部材を用いたリースの活用により、店舗や事務所等のフレキシブルな設置・撤去が可能



確かな技術力

- 半世紀にわたる経験と自社開発製品で高い強度を持つ構造体を実現
- 耐久性が高く、柔軟なデザインに対応できるシステム建築や在来工法にも対応可能
- 一級建築十等の有資格者や主任技術者が35名在籍。設計業務から丁事施丁まで一貫した受注 体制を確立



部材の直接仕入れとアフターサービス

- 太陽光発電パネルやパワーコンディショナ等の部材について、海外を含む多数のメーカーから直接 什入れが可能
- 太陽光発電設備の施工が広範囲で可能
- 自社でメンテナンス部門を持ち、販売後のアフターサービスが充実

ハウス・エコ事業:Mグレード認定工場の取得で事業を強化 💥



●設計から引渡しまでオービス 1 社で完結、Mグレード取得により売上増・利幅増を実現

2025年10月期認定工場取得予定

M グレード 建築規模:制限なし 延床面積:制限なし

高さ :制限なし



Grade Up

現状認定工場取得グレード

R グレード 建築規模:5階以下

延床面積:3,000m以下

高さ : 20m以下



差別化point

- 鉄骨加工の内製化によるコスト低減
- 競争力のある新製品開発への取組み
- 大型物件に対応、広々とした大きな空間 作りが可能
- 工期短縮、施工主との窓口も一つで 変更や相談もスムーズ

設計事務所



鉄骨加工業者



施工業者



引渡し



設計から鉄骨製作、 組立までの一元管理 を行い、より高い品質 の製品・サービスを提 供します

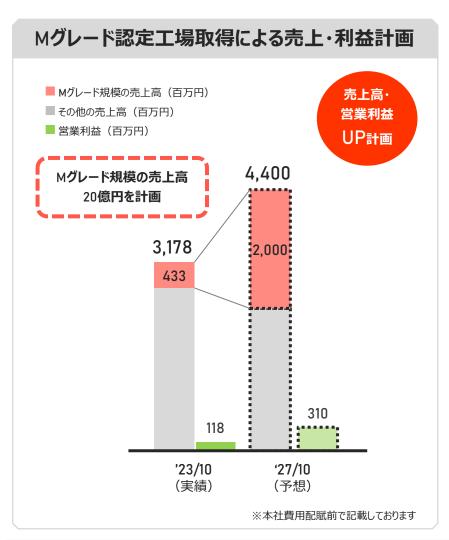


引渡し

ハウス・エコ事業: 事業強化により収益向上を計画



● Mグレード認定工場の取得により、粗利率を維持しながら'23/10月期比 売上高38.5%増を計画



売上高UP 営業利益UP

技術力UP·競争力UP

Mグレード認定工場の取得

人材の採用・育成

- アライアンス・M&Aの活用を模索
- ▶ 生産体制の拡充・・・工場スペース拡大、 鉄骨加工設備への設備投資、新規協力 会計の開拓
- 人材の採用・育成・・・'27/10月期100名 体制へ('23/10月期比+30名増)



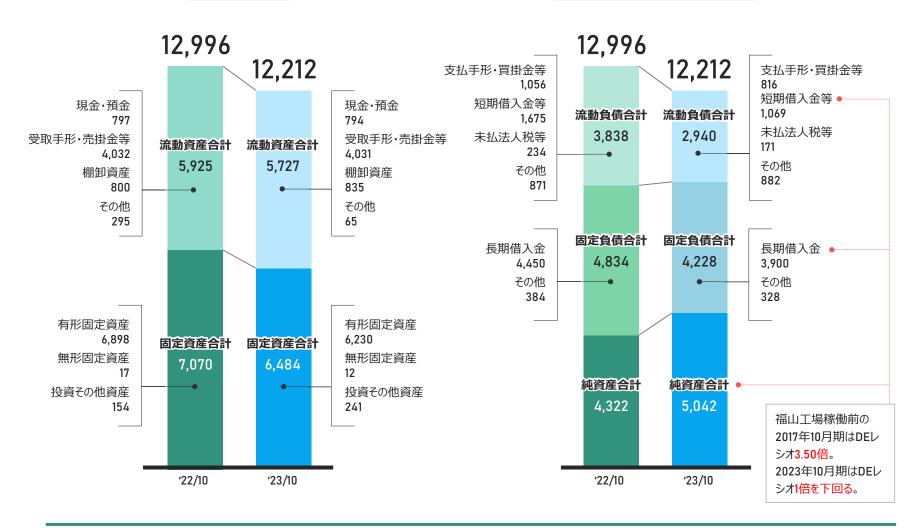
要約貸借対照表





負債及び純資産の部

(百万円)



2023年10月期決算概要: 増収、当初予想を大きく上回る利益





前期比

11,338

'22/10

102.3%---

11,950

23/10

(実績) (当初予想) (実績)

単位:百万円

11,596

23/10

売上総利益

99.6%

1.900

23/10

(実績) (当初予想) (実績)

'22/10

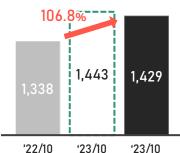
単位:百万円

2,099

23/10

販売費及び一般管理費

単位:百万円



(実績) (当初予想) (実績)

営業利益

····· (**2**)

単位:百万円



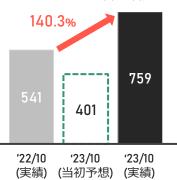
経常利益

単位:百万円



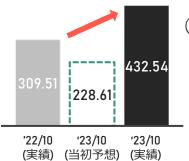
当期純利益

単位:百万円



1株当たり当期純利益

単位:円、銭



ハウス・エコ事業は、大型物件の 完工により大幅に増加。 木材事業は、工場の稼働維持を

最優先とした結果、商材販売が 大幅に減少。

2

木材事業は、販売価格の維持に 努めるも、原木消化量及び製品 出荷量はそれぞれ減少。

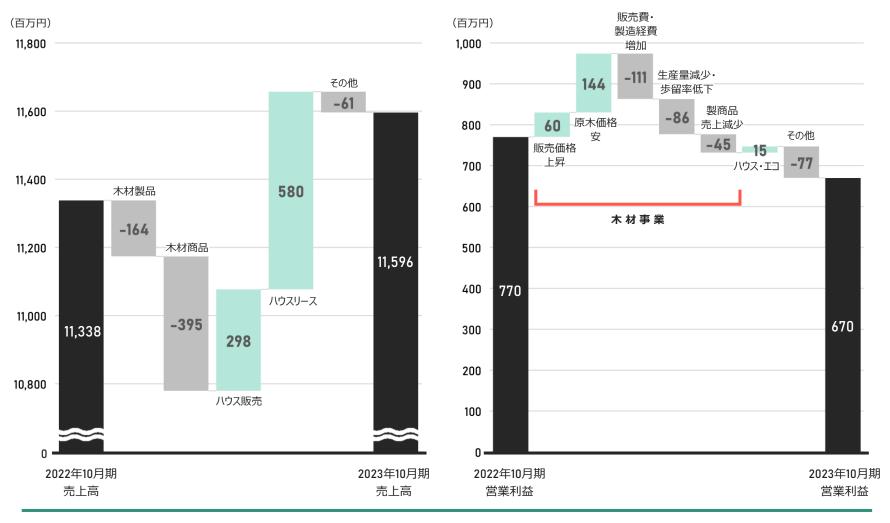
ハウス・エコ事業は、建築資材高 騰等の影響を受け利益率低下。 給与水準の引き上げ、賞与増。

事業の状況:全社



売上高の増減要因

営業利益の増減要因



事業の状況:木材事業



売上高

7.480 百万円

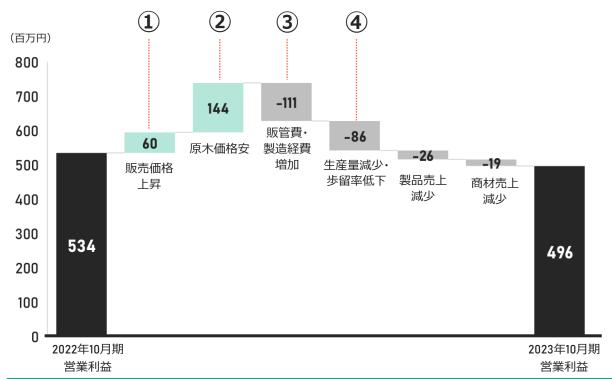
前期比-7.0%

営業利益

496 百万円

前期比-7.1%

営業利益の増減要因



1

安値販売を排除し、適正な販売 価格の維持に注力。

平均為替レートは前期比20円 程度円安に推移、中国の景気 減速を受けてFOB価格及び船舶 運賃は弱含みで推移、杉丸太も 大きな変動はなく若干弱含みで 推移。

給与水準の引き上げ、當与増、 消耗資材価格の上昇、資源エネ ルギー価格の高騰による電力費 の増加など。

(4)

木材需要の低下とともに荷動き は鈍化。厳しい事業環境となり、 生産量は若干減少、売れ筋明 細の製材が多く歩留率低下、利 益を押し下げ。

事業の状況:ハウス・エコ事業



売上高

3,178 百万円

前期比+38.2%

営業利益

118 алн

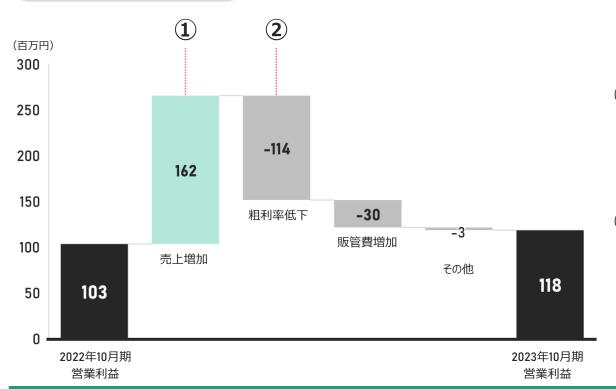
前期比+14.7%

受注残高

2,318 百万円

前期比-18.0%

営業利益の増減要因



大型物件の受注に注力した結果、 1件当たりの受注金額増に伴い売 上高も増加。

建築資材高騰や人不足等による 建築コストの上昇に対し、価格へ の転嫁が遅れ採算が悪化。

 $(\mathbf{3})$

確度の高い受注見込の案件が約 1,100百万円有。

引き続き受注の確保に尽力し、 加えて粗利率の向上に取組む。

事業の状況:その他



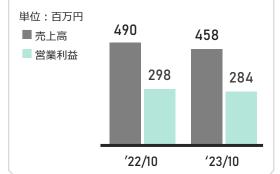
太陽光発電売電事業

結果

- 発電量の減少に伴って減収
- 減価償却負担の減少も減収 の影響が大きく減益

要因

- ・長雨等の影響に加え、電気事業者から 出力制御が行われたこともあり、発電量 が減少
- ・夏季の猛暑により発電効率が低下



ライフクリエイト事業

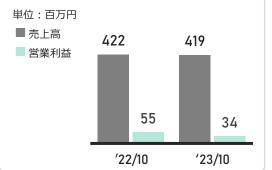
結果

- ゴルフ場の来場者数は前期比 1.1.%减少
- フィットネス部門を譲渡

要因

【ゴルフ場】

- ・夏季の猛暑・長雨の影響により、来場者 数は僅かながら減少
- ・周辺設備の経年劣化に伴う修繕の実施 【フィットネス】
- ・SNSの告知強化や早朝営業等の実施 も成果には結びつかず



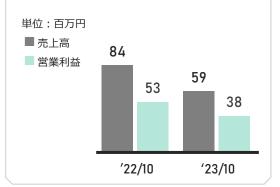
不動産事業

結果

- 特別利益2億76百万円
- 前期比29.9%減収

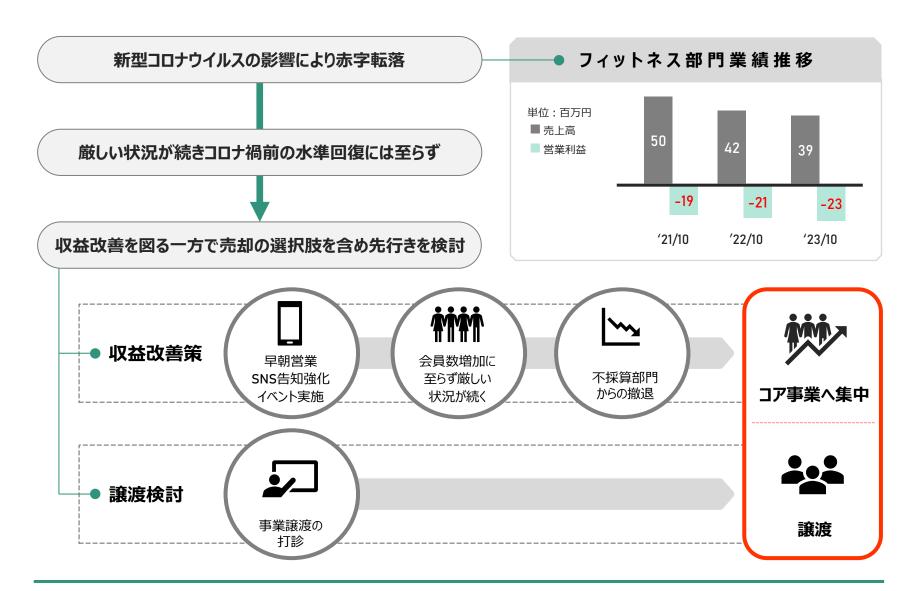
要因

・広島県福山市の賃貸マンションを2022年 12月に、広島市の賃貸マンションを2023 年4月にそれぞれ譲渡



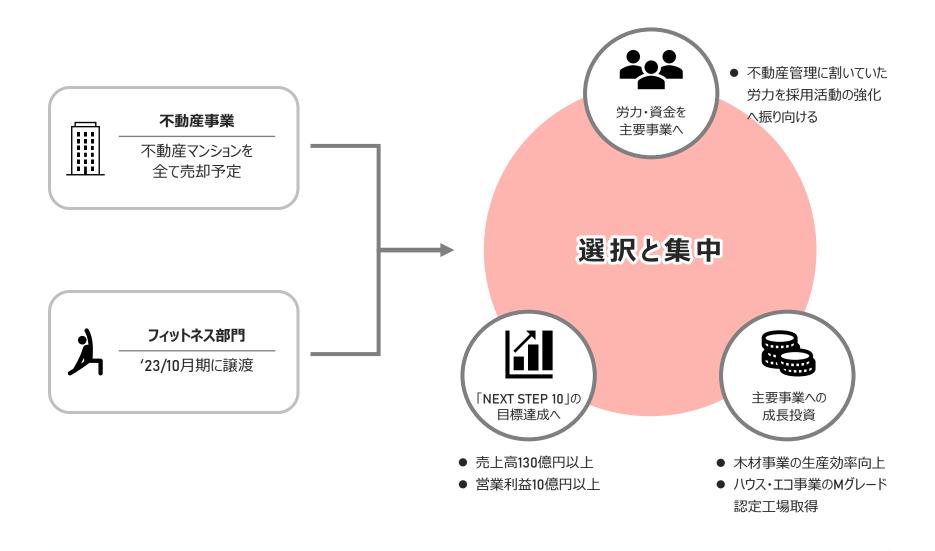
事業の状況:フィットネス部門の譲渡





事業の状況:事業の選択と集中







2024年10月期 市況環境見通し





円安の長期化

異次元の金融緩和政策により日 米金融政策の違いが強く意識され たため、円安ドル高が進行。

日銀が長期金利1%を目処とし、 一定の上昇を容認、金利上昇圧 力が高まるも円安の長期化を想 定。



🧘 原 木 価 格・業 界 の 動 向

ウッドショックの終息により、木材需 要は鈍化。中国の景気減速が続 き原木価格は軟調な動き。

木材市場全体が冷え込み荷動き も鈍く販売価格、出荷量及び原 木消化量はそれぞれ弱含みで推 移すると想定。



輸出の動向

産業用機械の輸出は2022年度に 前年度比15.2%增。

海外経済の回復とともに、産業用 機械の需要も高まりつつあり、輸 出梱包用木材需要の回復に期待 しつつ、新たな業界への販路拡大 を進める。



2024年問題

建設業・運送業等における時間 外労働をめぐる上限規制の厳格 化によって物件の工期の長期化、 人材難が想定。

人不足による運送費の上昇による コスト増。



資源・エネルギー 価格等の高止まり

ロシア・ウクライナ情勢の長期化に より資源・エネルギー価格は高止ま n_o

建設コストは建設資材の値上がり や人手不足により高止まり。

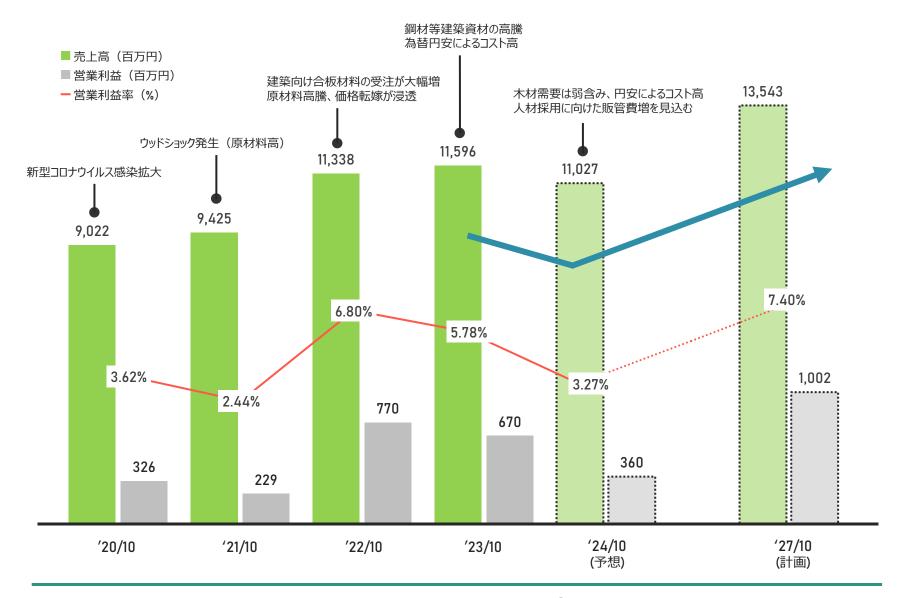


建設受注競争 の激化

都市再開発や建設投資等、建設 需要は未だ高い水準にあり、1件 当たりの丁事は大型化。

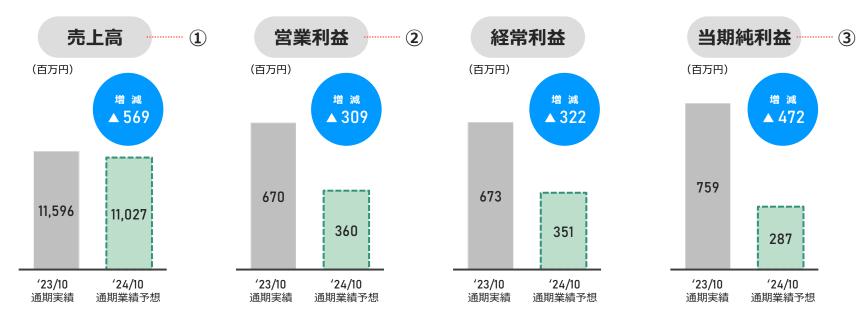
2024年問題の人材不足により工 期や採算の悪化が懸念され、受 注環境が激化、受注の確保が最 優先課題。

業績動向推移:木材事業は一時的に苦戦も業績は底堅く推移



2024年10月期 業績見通し(全体)





 $(\mathbf{1})$

木材事業は、市場の冷え込みに より引き続き厳しい事業環境を予 想。出荷量の減少、販売価格の 低下により減収を予想。

ハウス・エコ事業は、受注残高と確 度の高い受注見込案件により増 収を予想。

(2)

ハウス・エコ事業は、建築資材価 格の上昇分を価格転嫁し、利益 率の改善を図る。

木材事業は、需要低迷による受 注環境の悪化や円安ドル高によ るコスト増の影響もあり大幅な減 益を予想。

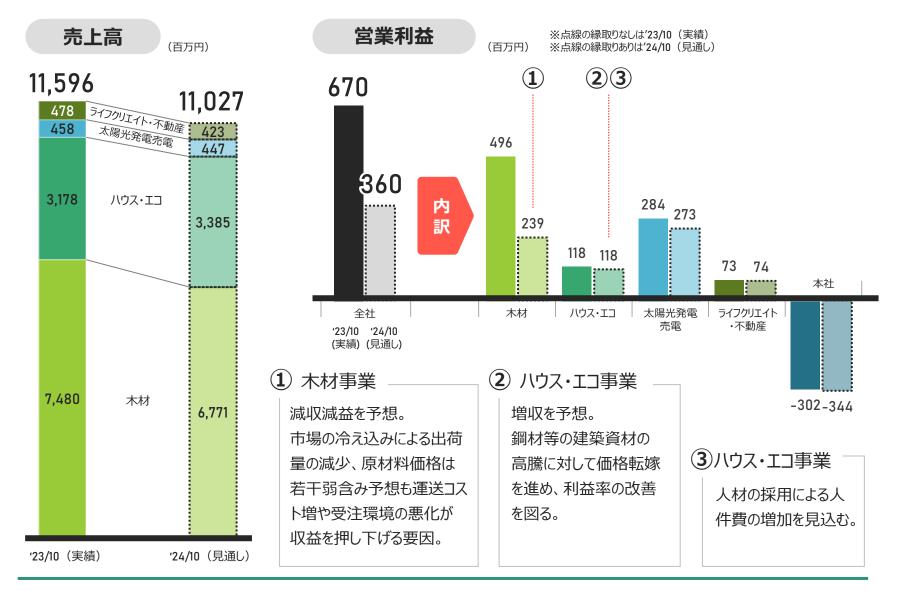
※'23/10は1米ドル139円 '24/10は1米ドル150円の見込 **3**

'23/10期には2億99百万円の特 別利益を計上。

'24/10期は、賃貸用不動産2 棟を譲渡し、特別利益80百万 円を計上予定。

2024年10月期 業績見通し (事業別)



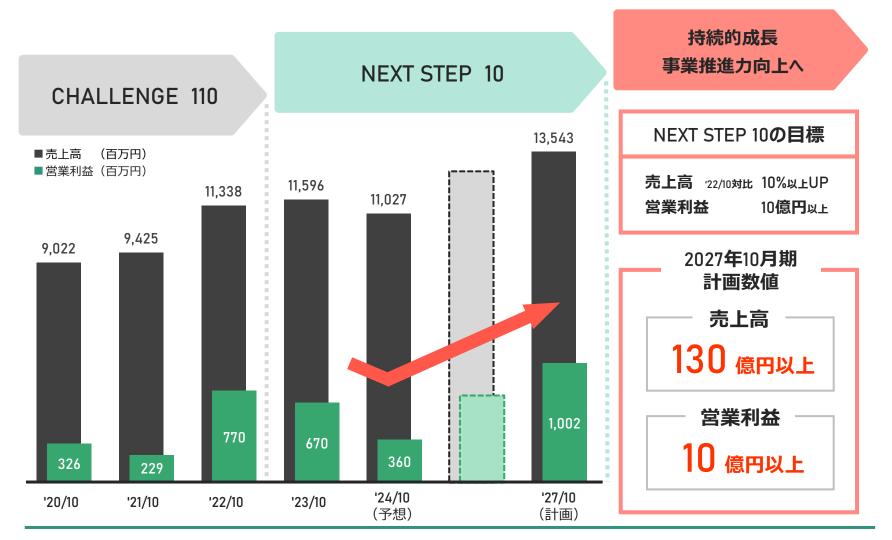




中期経営計画「NEXT STEP 10」の位置づけ



●前中計(CHALLENGE 110)で定着した持続成長トレンドを継続・強化



中期経営計画「NEXT STEP 10」の基本事業戦略



人員不足の解消・組織の若返り

ハウス・エコ事業の工務・設計・営業の採用・育成に注力、 最終年度の'27/10月期には30名増の100名体制へ



当初の採用計画を下回る結果に 人材の確保に引き続き注力



人材の 採用·育成

ハウス・エコ事業の強化

'25/10月期にMグレード認定工場を取得、最終年度の '27/10月期には単独事業として44億円の売上高を計画

> 各フェーズの位置づけに対する明確化を図り 短期・中期それぞれの時間軸に対応した プランを策定

Mグレード 認定工場の 取得

M&A等の活用、 業務効率・

生産効率の向上



情報入手 検討を継続

M&A・アライアンスの活用

M&A・アライアンスの活用は条件等により検討が続く

電子化・DX化の新しい仕組み作り

業務の申請・確認・決裁処理を可能な限り電子化する、 DX化と新しい仕組み作りの推進を加速

木材事業の成長投資

新たな設備投資を視野に福山工場の生産性を

'22/10月期比+5%以上の向上を目指す

2023年5月に設備投資を実施以降、生産効率は 前年比6.4%向上 更なる成長投資を構想

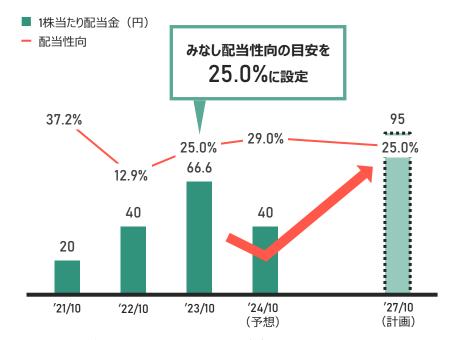


株主還元·配当方針



株主還元の基本方針

- ◆安定配当を継続し、業績の見通しや将来 の事業計画、経営安定化等のための内部留 保を総合的に勘案して決定
 - ・みなし配当性向の目安を25%(※)とする
 - (※)配当総額/((経常利益×(1-法定実効税率)) 現時点での法定実効税率は30.5%
 - ・最低配当金額を年間10円に設定



※配当金の計画は、参考指標の発行済株式総数に譲渡制限付株式報酬制度によって付与される 株数を考慮して計算しております

【参考指標】

※2023年12月20日終値ベース

株価	1,282円	単元株数	100株
1株当たり配当金(予想)	40円	発行済株式総数	1,760,787株
みなし配当性向	29.0%	最低投資金額	128,200円
予想配当利回り	3.12%	PER	7.86 倍
EPS (24 年 10 月期)	163.03円	PBR (23 年 10 月期)	0.45 倍

本資料取り扱い上のご注意



本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報 に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかる リスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性が あります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績 は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみ に全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身 のご判断において行われるようお願い申し上げます。



IR担当窓口

株式会社オービス 経理部

• TEL 084-934-2621 FAX 084-934-2624

• E-MAIL: ir@orvis.co.jp

URL: https://www.orvis.co.jp